

平成29年4月12日

国際会議において研究成果及び福島県の現状を発表
～科学的知見から復興に向けた情報発信～

環境放射能研究所副所長 塚田祥文は、**原子放射線の影響に関する国連科学委員会**（通称：UNSCEAR）の第64回年次総会イベントにおいて、研究成果及び福島県の現状を発表します。

日時：平成29年5月29日（月）

会場：ウィーン（オーストリア）

発表者：福島大学環境放射能研究所 副所長 塚田祥文 教授

対象：UNSCEAR加盟国（27か国）の代表団・約50～60名

題目：「2011年福島第一原子力発電所事故後の福島の農業環境における放射性セシウムと飲食物による内部被ばく線量について」

概要：

農耕地土壌、かんがい水など農業環境における放射性セシウム濃度の経時的な減少及び空間的な分布について解説する。

また、農作物中放射性セシウム濃度は事故直後に比べ大きく減少し、農作物も国が定める基準値以下であり、被ばく線量も十分に低い値である。

さらに帰還困難区域等の試験作付けでも低減化していることを世界に向けて発信する。

効果：

研究成果の発信とともに科学的知見から福島県の正確な情報を世界の専門家に発信することで、風評被害の払拭にもつながることを期待している。

（お問い合わせ先）

福島大学 環境放射能研究所 事務室

電話：024-504-2114 FAX：024-503-2921

Email：ier@adb.fukushima-u.ac.jp